

新潟県議会議員
議員活動報告

小島義徳

県政だより

謹賀新年



平成28年1月10日発行 第013号

東南環状線事業認可

五泉市街地の渋滞解消と歩行者や緊急車両の安全な交通確保を図る五泉市都市計画道路東南環状線が、県事業として九月二四日に念願の事業認可を受けることが出来た。本事業は南本町から寺沢を抜け赤海までの総延長二四六九mを総事業費約三五億円を七年後の完成を目指す。

JRの踏切による渋滞問題がこれにより解消し、五泉市活性化のベースとなる。同時に五泉市が、駅周辺整備を行うことで駅裏の利便性が大きく向上する。五〇年越しのこのインフラ整備を今後の五泉市発展につなげることが重要である。産業振興等を更に推進し地域の皆様のご期待に沿えるよう引き続き努力的に取り組んで参ります。

平成三十四年完成をめざす

昭和四〇年に都市計画決定された下図の東南環状線は、南本町三丁目交差点から寺沢を抜け赤海一丁目に至る未整備区間一、四六九mが九月二四日に事業認可された。

事業は主要地方道新潟五泉間瀬線として整備することから県の事業として進められる。標準部の幅員は十六m、側道のつく部分は二十七から二十七・五mの二車線道路となる。

総事業費は三五億円を予定しており平成三十七年度から測量や道路詳細設計を進め平成三十四年度を完成予定とする。

本事業は、私が初当選した平成十五年から五泉市が県やJRをはじめ地権者や地域住民との協議を重ね、平成二六年十二月の五泉市都市計画審議会で都市計画変更をした後、平成二七年九月二四日に事業認可されることとなった。

この事業と並行して五泉市が五泉駅周辺整備事業を行い旧蒲鉄線跡地を駅南公園線として道路整備し駅南のアクセスを改善する予定だ。

寺沢から赤海にかかるJR磐越西線の横断は跨線橋となることから遮断機による渋滞等の問題が解消される。よりスムーズな交通体系となり緊急車両等の初動対応時間の短縮につながる。

事業実施にあたり多くの住民の皆様の用地買収や移転作業が必要となることから関係者の深いご理解とご協力がかかせない。ここにご協力いただきます皆様にあらためて感謝と御礼を申し上げます。

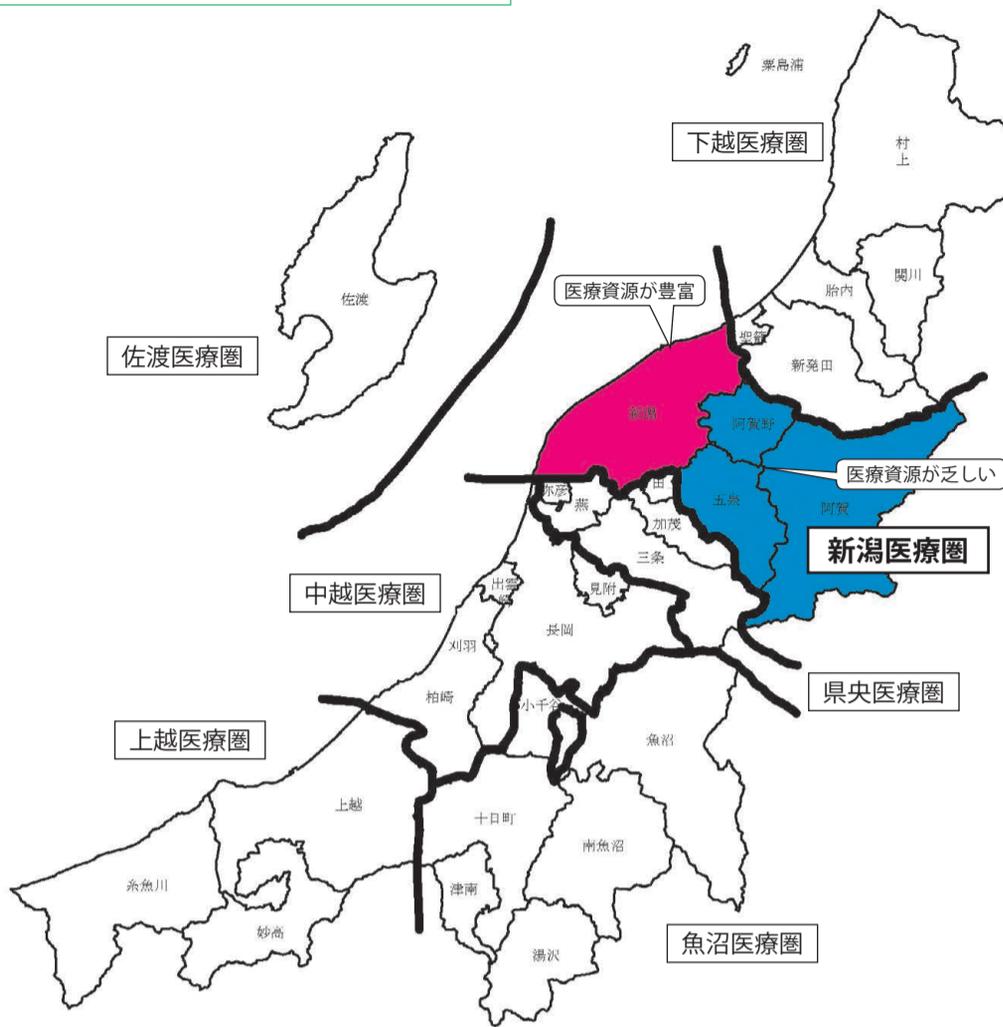
東南環状線事業実施予定地図

総事業費35億円は
市民、県民の財産

東南環状線完成後は
地域振興にフル活用



新潟県7つの二次医療圏



新潟医療圏の舞台裏

新潟県は七つの二次医療圏に分けられている。左図の通り五泉市は新潟医療圏に属しており新潟医療圏全体としては、病床過剰地域に該当し、人口十万人当たりの医師数、病院数とも県内で一番医療資源の多い医療圏とされていて一見よさそうに思える。

五泉市は医療過疎か？

しかしこれは新潟市中央区を中心とする新潟市内に医療資源が極端に集中しているためだ。五泉市、阿賀野市、阿賀町の医師数の実態は新潟県全体平均の1/2程度で、医療資源は非常に乏しい地域という現状である。

地域医療の課題

五泉市や近隣市町は、医師不足、看護師不足による医療過疎地である。特に病院勤務医は、過重労働を強いられ現状の機能を維持するのが精一杯な状況である。安定した医療の提供には医師の充足が喫緊の課題となっている。

診療科においても、産科を標榜している医療機関が無い。また高齢者に多い循環器系疾患や整形外科、小児科領域の入院に十分対応できる状況ではなく、これらの診療科の充足も望まれる。医師確保・診療科の充足は短時間に改善できるものではないが、病棟連携、病診連携を通じ、非常勤医師の確保等、医師の絶対数を増やす努力が必要である。

十二月定例会の主な議論

- 雇用のミスマッチ解消に向けた取組み
- 魅力ある雇用の場の確保に向けた取組み
- 県の林業・水産業の振興に向けた取組み
- 住民の生活を支える地域公共交通の維持に向けた取組み
- 安心・安全な道路交通の確保に向けた取組み
- 地方創生における政府機関の地方移転について
- 介護人材の確保に関する取組み
- 県立高校の将来構想について
- 県内経済・雇用・観光の概況について
- 本県のものづくり人材の育成について
- 県外大学生のUターン促進について
- ひどり親家庭等Uターンの促進について
- 魚沼基幹病院の役割について
- 加茂病院問題について
- 認知症の早期診断の促進について
- こどもの貧困対策について
- 原発事故時の避難対応について
- TPPの問題と可能性について
- 農作物災害の支援について
- 「新之助」のブランド戦略について
- 農作物の海外輸出促進について
- 来年度の新型交付金について
- ふるさと納税制度の課題について
- テロ対策について
- 外国人観光客の受入れについて
- 少子化対策モデル事業について
- メタンハイドレードの実用化について
- 中山間地域農業について
- 地域医療構想について
- インフラ整備の予算確保について
- 災害等の危機管理体制について
- 拉致問題の解決にむけた取組み
- いじめ問題の対応について
- 成長分野の産業振興について
- クルーズ船誘致と港湾整備について
- 農地の集積化について
- ドクターヘリ二機目導入について
- 県央基幹病院の候補地について
- 障害者や高齢者の交通事故対策
- その他

医療体制づくり

五泉の地域医療を担う医療法人真仁会(南部郷総合病院、北日本脳外科病院)は、五泉地域住民のための地域医療を守るため、分散している病院機能を統合維持し、新病院建設をすすめることとなった。

目指す新病院は、医師や看護師不足の医療情勢下で、現状のマンパワーを集約しあらたな地域完結型医療を目指すこととしている。

■ 総合病院(急性期病棟、回復期・リハ病棟、慢性期病棟)としての機能を維持し、外来入院医療を実施する。

■ 特定健診、人間ドック、各種健診などを実施し、疾病予防に努める。

■ 在宅医療、介護の支援を実施する。

■ 二次救急を受け入れ、入院治療を実施する。

■ 三次救急は大学、市民病院と連携する。新潟大学との連携により、地域医療を担うとともに高度な医療を提供する。

■ 回復期及び慢性期医療により、在宅復帰に向けた地域包括型医療を提供する。

※あらたな地域医療体制づくりには、民間と行政が密接に連携しなければならない。